



【宝塚清光苑】排泄自動記録システムを導入
正確な情報把握と業務負担軽減で
ケア品質のさらなる向上へ。

「居場所」を
目指します。



今後も定期的な開催を予定しています。遊び場のない子どもたちも悩みを抱える大人も、気持ちが解き放たれて優しい気持ちになれるような「居場所」を目指します。



「みんな食堂」をスタートしました。
8月2日(土)に開催した第1回では、夏休み中の子どもたちや親子連れ約20名に、保育園で調理したバターチキンカレーやコープこうべ様のフードバンクから提供いただいたお菓子などを提供しました。
また、皆さんの交流を促すため、ボードゲームなどの遊びのコーナーも設置。併設するウエルグループの宝塚清光苑からもスタッフがボランティアで参加し、みんなで楽しい時間を過ごしました。

仁川ウエル保育園
地域の居場所「みんな食堂」を開催



尊厳を守る認知症ケアで、利用者様との信頼を築く

ご自宅のような自由な生活環境

グループホーム陽光苑では、ご自宅と同じようにくつろいでお過ごしいただくために、起床や就寝、お食事の時間はご自身の生活リズムに合わせてとっていただき、利用者様のご希望に沿った自由度の高い生活を送っていただくことを大切にしています。夜眠れない方にはリビングでお過ごしいただき、時にはスタッフがお話のお相手をするなど、お一人おひとりに合わせた柔軟な対応を心がけています。また、利用者様の体力や意欲に応じて洗濯や食器洗いなどの家事もできる限りお手伝いいただき、自立支援や認知機能の維持を促しています。
陽光苑は複合型の施設のため、医療面でのケアが必要になれば併設の特別養護老人ホームをご利用いただくこともできます。施設内で連携し、途切れないケアを提供しています。

日常生活の中にもささやかな楽しみを



レクリエーションでは、季節のイベントのほか、屋上菜園での野菜の種まきや収穫、おやつ作りなども楽しんでいます。先日はボランティアによる音楽会を開催し、

楽器を手に懐かしい歌を歌って楽しみました。毎月のように訪れる利用者様のお誕生日には、スタッフと一緒に買い物に出かけておやつと一緒に作ったり盛り付けたりして、家族のようにお祝いをしています。
また、こうした特別なイベントばかりではなく、動画を観ながらの

体操や、編み物や折り紙などの作品作り、計算ドリルや漢字ドリルを使った頭の体操など日常生活の中にささやかな刺激を取り入れ、日々を楽しんでいただける環境を整えています。

「よりそう」ことを大切にしたい認知症ケア

認知症のケアについては、原点に立ち返り、その方の言葉や行動を受け入れることを何よりも重視しています。症状を慎重に見極めながらも、症状が出たからといって即座に医療につなげるのではなく、まずは「そばにいる」「お話を聞く」などスタッフがよりそう時間を設け、尊厳を守るケアに努めています。大きな声を出される方でも、その気持ちを受け入れることで状態が安定する場合も少なくありません。ご家族からは「薬を増やすことなくスタッフの力で頑張ってくれることがありがたい」などと評価いただくことも多々あります。
こうした対応は時間がかかるものですが、スタッフ全員で利用者様の状態を共有し密に協力し合って実現しています。ご本人に安心してお過ごしいただき、ご家族にも安心して預けていただける、信頼で結ばれたグループホームを目指しています。

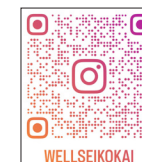


ウエルグループ | 入所系・通所系サービスのご相談は、下記の事業所へ直接ご連絡ください。QRコードから、それぞれの連絡先をご覧ください。

豊中市
①清豊苑 [特]
②利倉清豊苑 [地/デ/グ/小/定]
③美豊苑 [特/ケ]
④刀根山美豊苑 [地/デ]
⑤輝豊苑 [デ/グ]
⑥ウエルケアプランセンター

⑦ウエリスト [小/デ]
⑧社会福祉法人香聖会 宙(すばる)豊中 [地/グ/小]
⑨庵とよなか庄本 [有]
⑩エターナル緑地 [有]

宝塚市
⑪宝塚清光苑 [特/デ/グ/小/ケ/定]
芦屋市
⑫陽光苑 [地/デ/グ]
西宮市
⑬バセム西宮 [有]
⑭ケアプランセンター西宮清光苑



【宝塚清光苑】排泄自動記録システムを導入

正確な情報把握と 業務負担軽減で ケア品質のさらなる向上へ。

ウエルの
今を
深掘り！

ウエルグループでは、ＩＴを積極的に活用することで職員の負担を軽減し、利用者様へのより細やかなケアにつなげています。８月には、宝塚清光苑の特別養護老人ホームの一部トイレに排泄自動記録システムを導入しました。その効果や今後の取り組みについてご紹介します。

排泄記録を自動化し

正確な情報を把握



Ｑ…システム導入の背景は？

大坂…排泄状況の確認は通常、職員が直接利用者にヒアリングして行っています。ただ、利用者が排泄の時間や内容を覚えていない、またはご自身ではしっかり出ていると思っても実際はそうではないなど、正確な情報を得ることが難しいという課題がありました。



ショートステイ
宝塚清光苑
ユニットリーダー
大坂真央

ました。職員が使用後のトイレを確認して推察することもありますが、プライ

バシーに関わるため、それを嫌がる利用者様もいらつしやいますし、何度もお聞きすることも憚られます。そこで職員や施設長とも解決を話し合い、排泄自動記録システムを試験的に導入することにしました。

Ｑ…課題は解決しましたか？

大坂…トイレの入室や着座、排泄終了から退室までの時間や、便の量や色などが自動で記録され、スマートフォンアプリから正しい排泄内容を確認できるようになりました。記録内容から、水分量が足りているか、体調を崩していないかなどを判断できるほか、医師や看護師とも情報を共有し、下剤などの薬の処方にも役立ててもらっています。加えて、トイレへの入室時には職員のスマートフォンに

通知が入るため、必要に応じて駆けつけお手伝いすることで転倒を防ぐこともでき、見守りの強化にもつながりました。

Ｑ…職員の方々の反応は？

大坂…利用者様に排泄の確認をする必要がなくなり、業務負担が軽減されたという声があがっています。効果が見られたため、８月からは本格的に一部の共用トイレに導入しました。今後、導入によってこれまで排泄確認にかかっていた業務時間がどれだけ短縮されたかをデータ化して可視化し、導入の拡大を検討したいと思っています。

先進技術の導入で

介護現場にゆとりを

Ｑ…ＩＴやロボットの活用で得られるメリットは？

大坂…少ない職員数でもしっかり利用者様をケアできることです。例えば車椅子の移乗では、介護ロボットを導入することで介助に必要な職員の人数が２人から１人に減り、その分職員は他の利用者様を見守ることができま

す。また入浴介助の機械を活用してより短時間で入浴を終わらせることができれば、職員だけでなく利用者様の身体的負担も軽減できます。

た「眠りSCAN」では、利用者様の睡眠状態を自動で記録しています。導入当初は逆に業務が煩雑化してしまうのではないかと心配でしたが、今では、このシステムなくては夜間の見守りができない、と思えるほどに役立っています。

Ｑ…目指す介護の形は？

大坂…介護現場にロボットやＩＴを導入した先進事例としてある事業所を見学した際に、職員の人数は少ないにも関わらずユニットの雰囲気が出たりとしていることが印象的でした。業務負担を軽減することで職員に精神的な余裕が生まれ、それが利用者様への良質なケアにつながっているのだと思います。したがって、まずは職員がゆとりを持って仕事ができる環境づくりが大切です。

少子高齢化が進み、介護サービスを利用される方が増えていく一方で介護の担い手不足が

【排泄自動記録システムとは？】

トイレに設置したセンサーが入室や着座などを検知し、スマートフォンに通知。

排尿時間や便の状態などの排泄内容も記録して結果をスマートフォンなどで確認できるシステムです。



問題視される中、機械やロボットで職員の業務を補完し、少人数でも質の高いサービスを提供できる環境づくりを進めたいと考えています。

同時に、こうした技術の導入が、ウエルグループが目指している「生涯現役」で働き続けられる職場づくりの実現にもつながると考えています。

人手不足の課題を解消し

未来ある介護を実現

Ｑ…介護ロボットは介護人材の代わりになり得ますか？

大坂…介護の主体はあくまで人です。ただし、人にしかできないこともあれば、人でなくてもできること、逆に人にはできないこともあります。例えば、食事介助は人でなければい

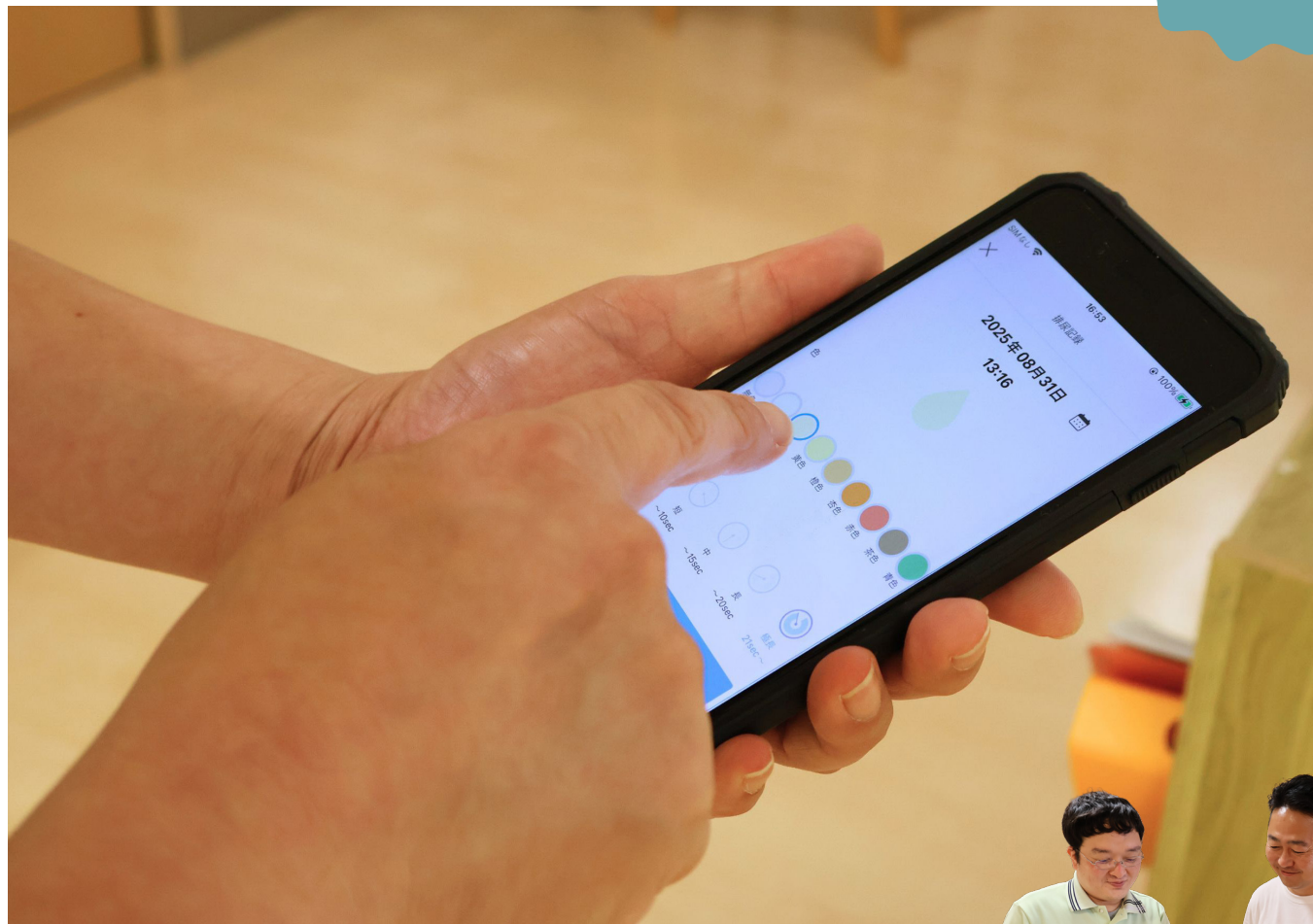
介護人材の多様化が進む中でも ケア品質を担保するために



特別養護老人ホーム美豊苑
施設長
内海敦之

今後は、介護を担う人材の性別・年齢・国籍の多様化が進むと予想されます。その時に最も問題なのは、利用者様に「この職員にはお風呂を頼めないから今日は我慢しよう」などと思わせてしまうこと。サービスを提供するのが誰であろうと一定の品質を維持することが大切です。だからこそ、私たちは積極的に新しいシステムや機械を導入しています。

単に生産性や効率を上げるためではなく、サービス品質を担保することを何より重視しています。これからも常に時代の先を読み、新たな取り組みで介護サービスを進化させていきます。



介護品質の向上につながる機器の情報を常に収集し、施設長や職員などと共に話し合って導入を進めています。